



## 医療安全通信 第59号

## 【薬局部 医療安全委員会】

医療安全推進のため、Pharma Bridgeを通じて、医療安全上の周知すべき情報やタイムリーな話題を随時発信いたします。業務手順書の書換えや日常業務にお役立てください。

## 吸入薬の配合剤の組成について

薬局ヒヤリ・ハット事例収集・分析事業の「共有すべき事例」2019年 No. 1には『吸入薬の配合剤の規格』についての事例が掲載されています。  
[http://www.yakkyoku-hiyari.jcqh.or.jp/pdf/sharing\\_case\\_2019\\_01.pdf](http://www.yakkyoku-hiyari.jcqh.or.jp/pdf/sharing_case_2019_01.pdf)

## ◆ 事例の内容

レルベア200エリプタが処方され1回1吸入の指示があった。薬局にレルベア200エリプタは在庫がなく、レルベア100エリプタの在庫があったため、処方医に問合せを行いレルベア100エリプタへの変更の了解を得た。薬剤を交付する際、患者にレルベア100エリプタを1回2吸入するように指導した。その後、変更に関して誤りがあることに気付いた。

## ◆ 背景・要因

レルベア100エリプタとレルベア200エリプタの組成について、理解していなかった。

## ◆ 薬局が考えた改善策

薬剤を変更する時は、添付文書を確認する。

## ◆ その他の情報

レルベア100エリプタ 14吸入用、30吸入用／

レルベア200エリプタ 14吸入用、30吸入用 の添付文書（一部抜粋）

## 【組成・性状】

	レルベア100エリプタ		レルベア200エリプタ	
	14吸入用、30吸入用		14吸入用、30吸入用	
	ビランテロール トリフェニル酢酸塩	フルチカゾン フランカルボン酸 エステル	ビランテロール トリフェニル酢酸塩	フルチカゾン フランカルボン酸 エステル
1ブリスター 中の量	40 μg (ビランテロール として25 μg)	100 μg	40 μg (ビランテロール として25 μg)	200 μg

## ◆ 事例のポイント

○この事例は、処方変更に関する提案が適切でなかった事例である。

○レルベアは二つの有効成分を含む配合薬であり、症状に応じてレルベア100エリプタあるいはレルベア200エリプタ1吸入を1日1回吸入する薬剤である。

○いずれの規格も長時間作動型吸入β<sub>2</sub>刺激剤であるビランテロールを25 μg含有しており、レルベア200エリプタ1吸入はレルベア100エリプタ2吸入と同等ではない。

○処方箋通りに調剤することが基本であるが、処方薬の代替が必要な場合は、処方された医薬品の成分名や含有量、効果・効能、用法・用量の確認はもちろんのこと、製剤の特性なども考慮したうえで、慎重に代替薬を選定することが重要である。 【原文のまま抜粋】

## 複数規格のある配合吸入薬

商品名	規格	1ブリスター / 1噴霧 中の含量		適応症			
		ステロイド剤	β <sub>2</sub> 刺激薬	喘息	COPD		
アドエア ディスカス	100	フルチカゾン プロピオン酸 エステル	100 μg	サルメテロール (キシナホ酸塩)	50 μg	○	—
	250		250 μg			○	○
	500		500 μg			○	—
アドエア エアゾール	50	フルチカゾン プロピオン酸 エステル	50 μg	25 μg	25 μg	○	—
	125		125 μg			○	○
	250		250 μg			○	—
フルティフォーム エアゾール	50	フルチカゾン プロピオン酸 エステル	50 μg	ホルモテロール フマル酸塩水和物	5 μg	○	—
	125		125 μg			○	—
レルベア エリプタ	100	フルチカゾン フランカルボン酸 エステル	100 μg	ビランテロール (トリフェニル酢酸塩)	25 μg	○	○
	200		200 μg			○	—

複数の規格がある吸入薬の配合剤の規格はステロイド剤の含量を示しており、β<sub>2</sub>刺激薬はいずれの規格も同含量で配合されています。

また、規格によりCOPDの適応の有無が異なりますので、患者の症状に合った規格が処方されているのか確認することも必要です。

旭川薬剤師会公式サイトに、吸入薬一覧を掲載しますので、印刷して、処方鑑査にご活用ください。

※HPへの掲載は、FAX配信より遅れますことをご了承ください。